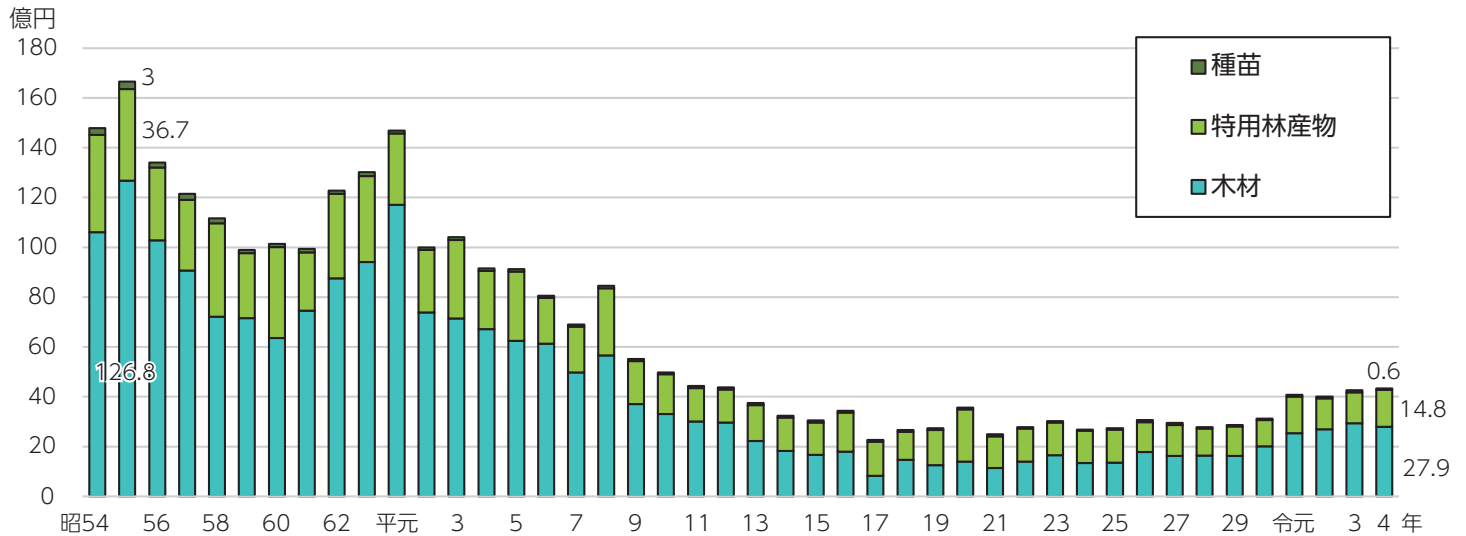




## II 林産物の生産

- 令和4年の京都府の林業産出額は43億円で、その内訳は、木材生産額が27億9千万円、特用林産物生産額が14億8千万円、種苗生産額が6千万円となっています。
- 木材生産量は昭和55年をピークに減少傾向が続いてきましたが、近年は素材生産量の増加等に伴い微増傾向となっています。

林業生産額（昭和54年～令和4年）



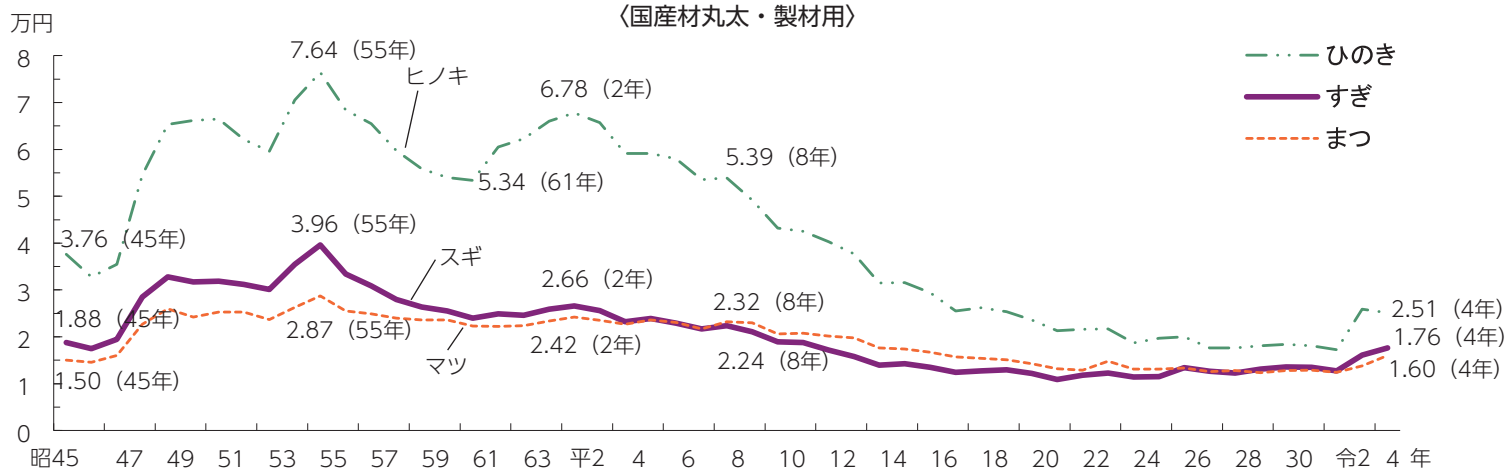
資料：林業振興課（森林政策・流通係（木材）、林業経営強化係（特用林産物））、森の保全推進課（モデルフォレスト推進係（種苗））

注 令和4年版から資料を変更しました

（令和3年版までは、農林水産統計 林業産出額（農林水産省大臣官房統計部））

1 m<sup>3</sup>あたり年平均木材価格（全国）（昭和45年～令和4年）

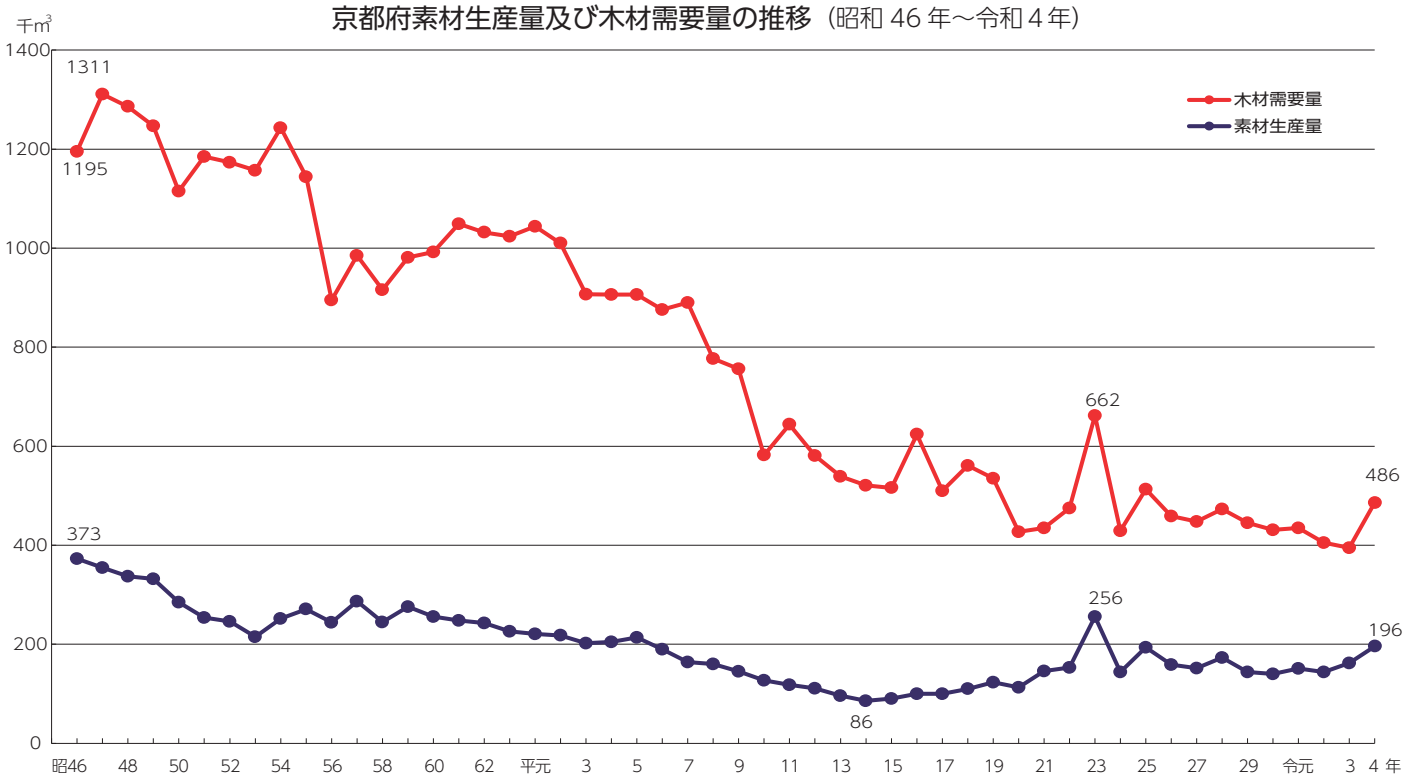
〈国産材丸太・製材用〉



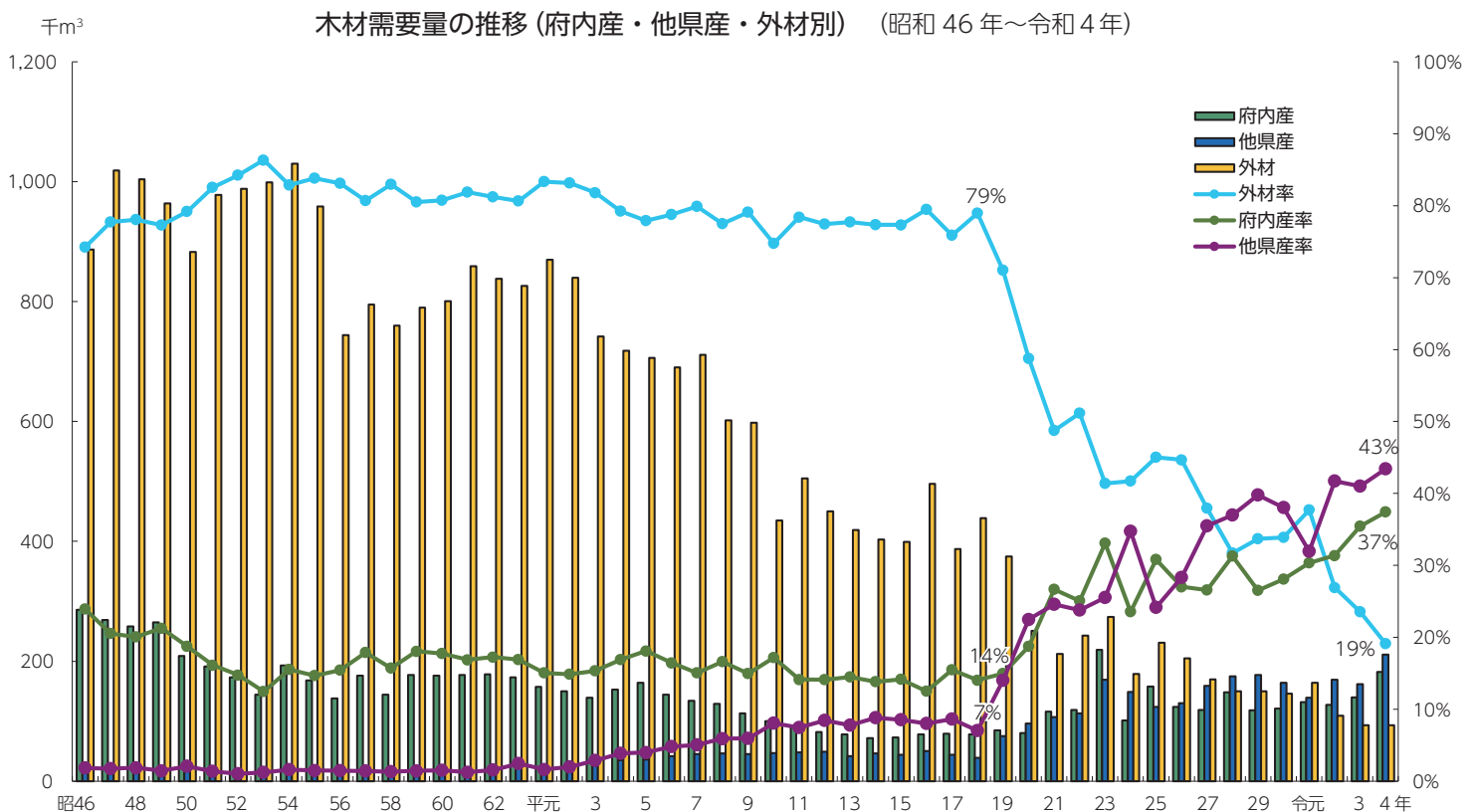
注 昭和52年までは、スギ・ヒノキ・マツ共通で丸太・中（20～28cm）を採用していたが、53年より規格の変更があり、スギ・ヒノキでは14～22cmを、マツでは24～28cmを採用している。

資料：「農林水産統計 木材価格」（農林水産省大臣官房統計部）

- 府内の素材生産量は年々減少していましたが、平成 14 年以降持ち直し、令和 4 年の素材生産量は 19 万 6 千 m<sup>3</sup> となっています。
- 府内の木材需要量は令和 4 年で 48 万 6 千 m<sup>3</sup> であり、平成 18 年以降、上昇傾向にある府内産率は 37% となっています。



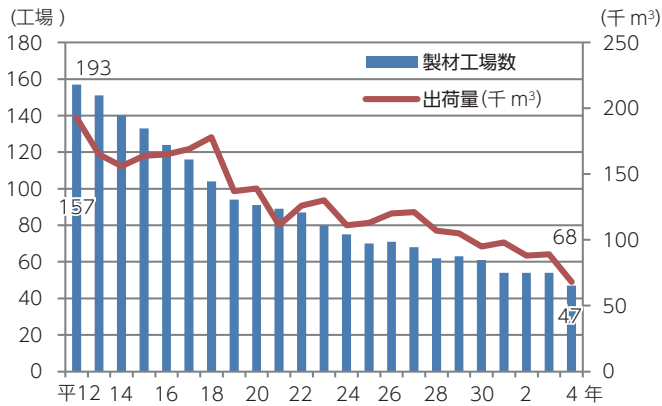
資料：林業振興課森林政策・流通係  
注 令和 4 年値から燃料用木材を含む



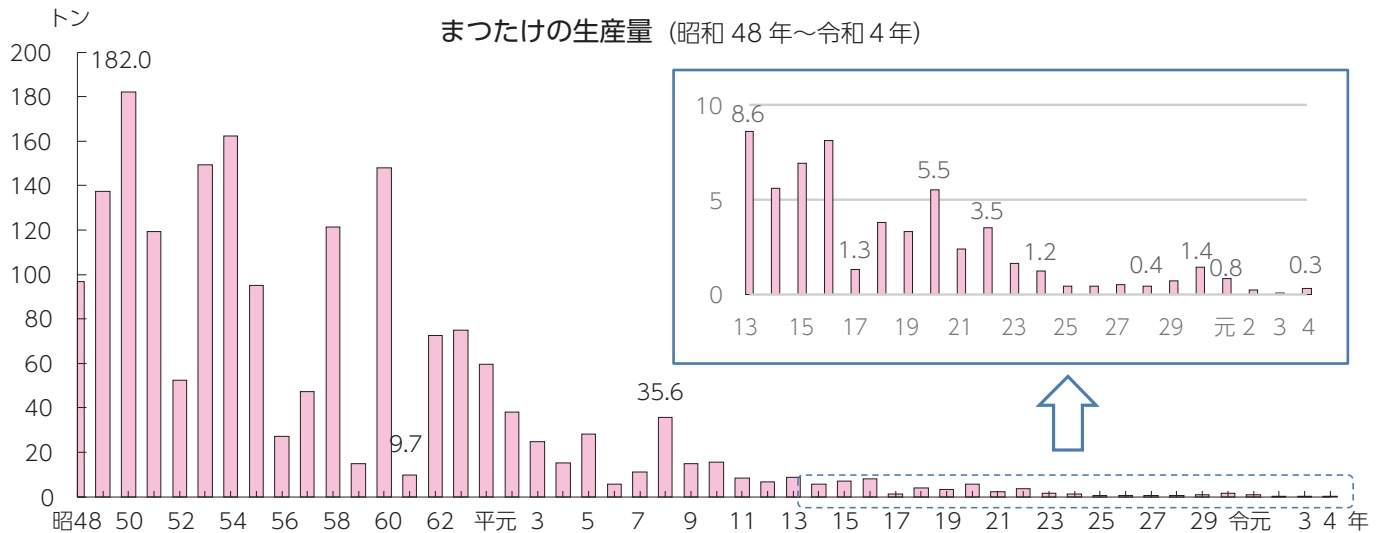
資料：林業振興課森林政策・流通係

- 製材・チップ工場数は年々減少傾向となっています。また、令和4年の製材工場の出荷量は6万8千m<sup>3</sup>で年々減少傾向、木材チップの生産量は13万2千トンで横ばい状態となっています。

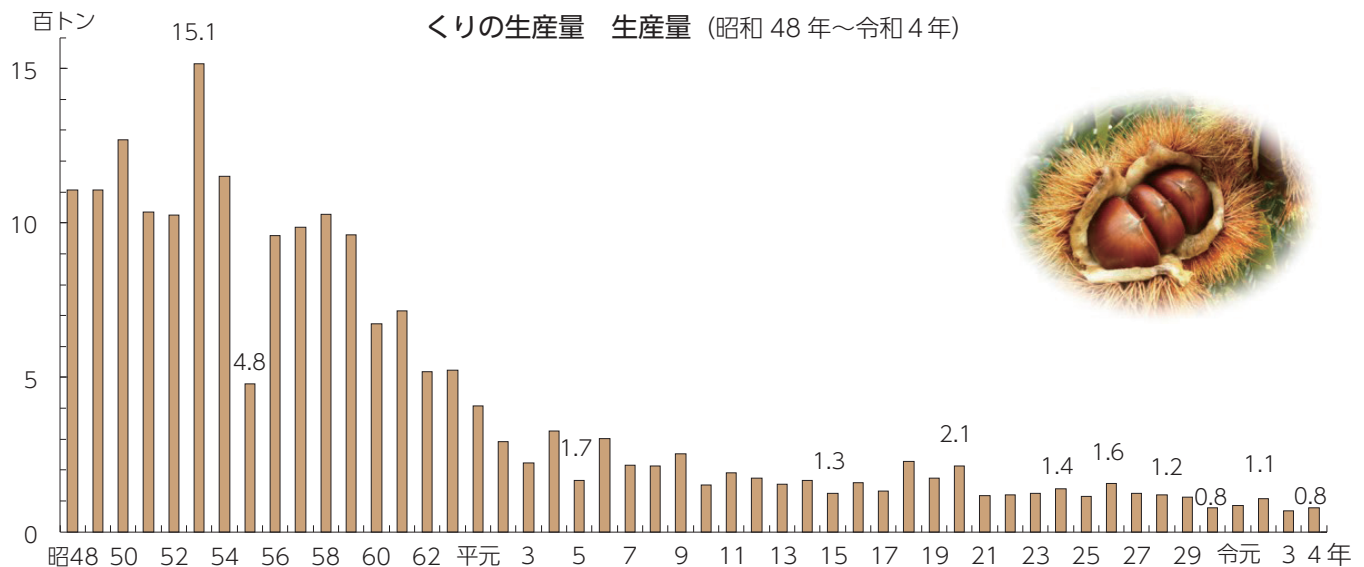
製材工場数及び出荷量（京都府）平成12年～令和4年



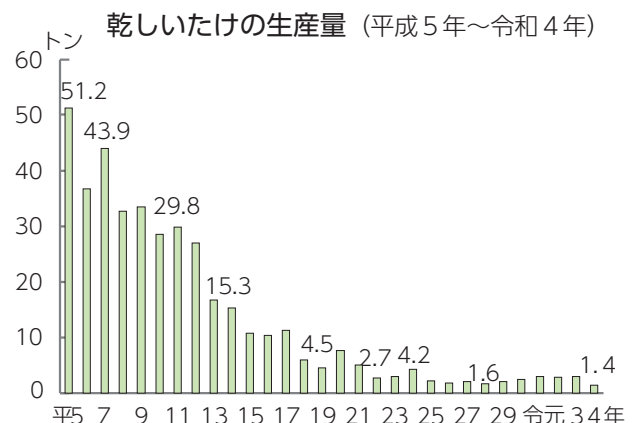
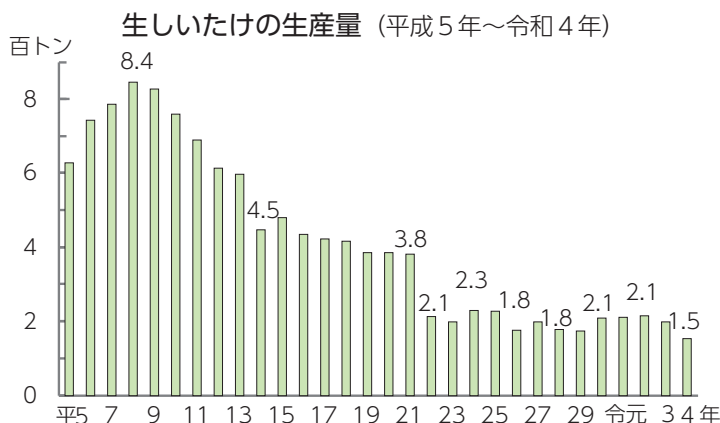
- 府内産の特用林産物は、丹波まつたけや丹波くりなどに代表され、良質なものとして市場等で高い評価を受けています。
- まつたけの生産量は、松くい虫によるマツの枯損や林家の高齢化等からその生産量はピーク時の1%未満で推移しています。くりの生産量は、生産者の高齢化や減少等からピーク時の10%程度で推移しています。



資料：特用林産物生産統計調査（林業振興課林業経営強化係）



資料：林業振興課林業経営強化係



資料：特用林産物生産統計調査（林業振興課林業経営強化係）